



# キャミちゃん

HIGH  
GRADE  
DOLLS

STREET FIGHTER CAMMY ONLY BOOK

# キヤムちゃん

HIGH  
GRADE  
DOLLS







みなさんこんにちは「威風堂」です  
例年以上に酷暑ですね。くたばりそうです！  
今回はキャミオンリーの本となりました  
そして前回同様にフタナリ本となります。  
完全に趣味が優先です。楽しんでね♪

今回は新たにシナリオライターとしてJUN  
さんにテキストを書いて頂きました。エロ  
ゲ業界では20年以上のベテランさんであ  
り、えっちいワードがバシバシ出して頂き感  
謝です。威風堂(中野ら〜めん)

あやうしキヤミイ

# 26年目の復讐

文：JUN・中野ら～めん 画：たまつやだ

「くっ……お前たち、一体私をどうするつもりだっ……」

「ターゲット股間に変化あり」

「計測：体温上昇中」

「ぼっ、パカ、触るなっ！」

必死に暴れるキヤミイの事などかまいません、ユーリとユーリは彼女の体を弄りながら、その変化を確かめていく。

「くっ……いきなり拉致されたと思うたら『フタナール』とかいう、おかしな薬を飲まされて……ああ、こんな……」

キヤミイは己の体を生えた、おぞましい男性器を直視出来ずたい。しかし、ユーリの指が、そこにツツツと先端に触れただけで、なんともいえない感覚が身についてくる。

「感度・良好」

「作戦を実行します」

薬のせいかな、だんだんと頭がぼんやりとしてくる。大きな声をだしてないと、キヤミイは自分を保っていられそうもなかった。





二人の体にも、キヤミイと同じモノが生えている。おそろしく彼女たちも事前に関し薬を服用したのだろう。無駄とわかつていても、キヤミイは彼女達を問い詰める。あつさりと言えは返って来た。

「目的・新たなシヤドルーを結成」

「じゃ、シヤドルーだと……」

思い当たることはあった。

「お前たち、ベガの復活に気づいたのだな、それで私を仲間を引き入れよう……」

くふふ、あつ」

二人同時に、豊満なキヤミイの乳房に被りつく。乳房を舐められ、「ロロ」回転がさ

れ、彼女は甘い声をあげて

しまう。

「ご、ごんな、いやあ……あつ、あああんっ♡」

ただ舐められているだけの

なのに、信じられないほどの

気持ちよさに襲われる。同

時に男性器も擦られて、何も考えられなくなってくる。



「だめ、イヤあ、そこは……  
やめろっ、くうううっ」

二人の舌が今度は男性器の  
方へと伸びていく。まるで奪  
い合うように、激しいフェラ  
が開始される。

「ちゅる♥♥ちゅるっ♥ちゅ  
ば、ちゅば♥」

「じゅるるるっ♥♥ちゅる、  
れるれるるお♥」

「ふああっ♥あんっ、だめえ、  
やああん♥♥」

キヤミイの腰は、勝手に動い  
てしまう。今までに感じた  
ことのない快感が襲ってき  
た。

「くう……♥我慢できない、  
どうしてえ……♥♥」

「薬による変化」  
「感度・さらに上昇」

「ふああっ♥そ、そんなあ……  
…私が、こんなあ♥♥」

抗おうとすればするほどが  
つしり捕まれ、執拗に愛撫  
される。電撃でも浴びたよ  
うに、股間がビリビリして  
くる。

「あっ、あああんっ♥もあ、お  
かしくなっ♥♥」





グイッと股を広げさせられ、恥ずかしい姿勢にさせられると、愛撫ですっかり湿っていたオマンコを指でかき混ぜられる。

「あつ♡あまあつ♡♡♡」  
声を抑えることなど最早、出来なかった。ずつとそうされるのを待っていたかのように身体が震える。そんなキヤミイに休む間を与えず、ユー一が覆いかぶさり、口の中に男性器をグイッと突っ込んでくる。  
「ふっ♡んぐっ、ぐっうう♡♡♡」

吐き出そうとすると、更に奥まで押し込まれてしまい、どうにもできない。(だめだ、オマンコだけじゃない、私のオチンチンまで、そんなに触られたら……ああ♡身体が熱くて変になりそうだ♡)  
二人からの激しい責めに、キヤミイは成す術もなかった。



絶え間なく訪れる快感。その気持ち良さにキヤミイは流されつつあった。

「ターゲット戦意喪失、次の段階に移る」

「つ、次って、何を……あつ、あああつ！」

キヤミイの身体にスプリと男性器が挿入される。愛液ですっかり濡れ濡れになっていたオマンコは、それをあっさり受け入れてしまった。

「ああん……だめをっ、それだけは……だめええ♡」連動するよつた、キヤミイの男性器も固くそそり勃ち、先端から汗が滴り落ちる。

「うっつ、オチンチンが、はあはあ、熱いつ♡」初めての快感に戸惑うキヤミイの目の前に突き出された、ユー一の男性器。何故かそれを無我夢中で頬張った。身体がそつすることゝを求めていた。

「んじゅっ、ずんぬ……んちゅ、じゅんぬんぬん」





それくらいでは、キヤミィの熱は治まってくれない。ユーリが尻尻をこちらに突き出してくると、誘われるがままにそこに男性生殖器を突き刺した。

「んはっ……♡♡あんっ、オマンコの中がこんなに気持ちいいなんて♡んんっ、きゃああっ！」

浸っている間もなく、今度はユーリにバツクから入れられる。

「そ、そんなに激しく、打ち付けられたら……♡♡んはっ、お、奥にあたるぅううっ♡♡」

「フツ、フツ、フツ、フツッ」

ユーリの息遣いが荒い。

「はあ、はあ、はあっ、あんっ、あんっ」

ユーリも甘い喘ぎをもらっている。戦闘人形として、ほとんど自我がなく見える一人も、今は完全に快楽に翻弄されていた。



パンパツ、と淫らなピストン音が部屋に響き渡る。キヤミイはだらしなく開口していた。

「あはあん♡ああん♡なんでこんなな感じでしまつのか……んくっ、くっちゃん」勝手に膈が閉まり、相手のものを逃がさないと締め付ける。ユーリーの男性器がビクビクと震えた。

「はあはあ……まきをなく射精します」

「えっ……ちよう、そんなに強くしたら、んあっ♡ごこわれるうっうっ♡」

その動きにキヤミイの男性器も、ユーリーの中ではちぎれそうなくらい大きくなっていた。

「状態・射精寸前」

「こそ……このままをぐくはあ、もあ、だめっ、イク、イグ、いっくっうっうっ♡♡」

「オマン」に精液を注ぎ込まれるのと同時に、キヤミイも果てた。

「あきゅんっうっうっ♡ああん、出てる……オチンチンから、出てる……あひぢら♡♡」





その後も、キヤミイを中心とした彼女達の淫乱の宴は続いた……。

「あひい、オチンチンもっとおもっとうちようたい♡」

キヤミイはすっかり葉漬けの快楽の虜になっていた。

「症状・淫乱、セックス中毒」

「ターゲット攻略成功……更なる依存度を上げる為、作戦続行」

「あへえ、まだしてくれるのか……。だうたら早く、早くオチンチンちょうだい♡」

だらしなく涎をたらしながら、キヤミイはおねだりをす

る。男性器は勃起しっぱなし、オマンコからは大量の精

液があふれ出していた。

「子宮とお、オチンチン……。両方いっぱい、気持ちよくな

りたいのぉ♡」

焦らされるのが我慢できず、手を伸ばすキヤミイ……。

「一本の男性器は、何度射精したはずなのに未だにギンギンに勃ちていた。

「セックス、いい♡……セックスしゅき♡だいしゅき♡……♡♡♡」

●じゃっじ先生の  
お絵かきコーナー



じゃっじ先生からコメントを貰おうと連絡しまし  
たが、いつものように逃げられました。  
コメントがもらえる日が来るのでしょうか…





























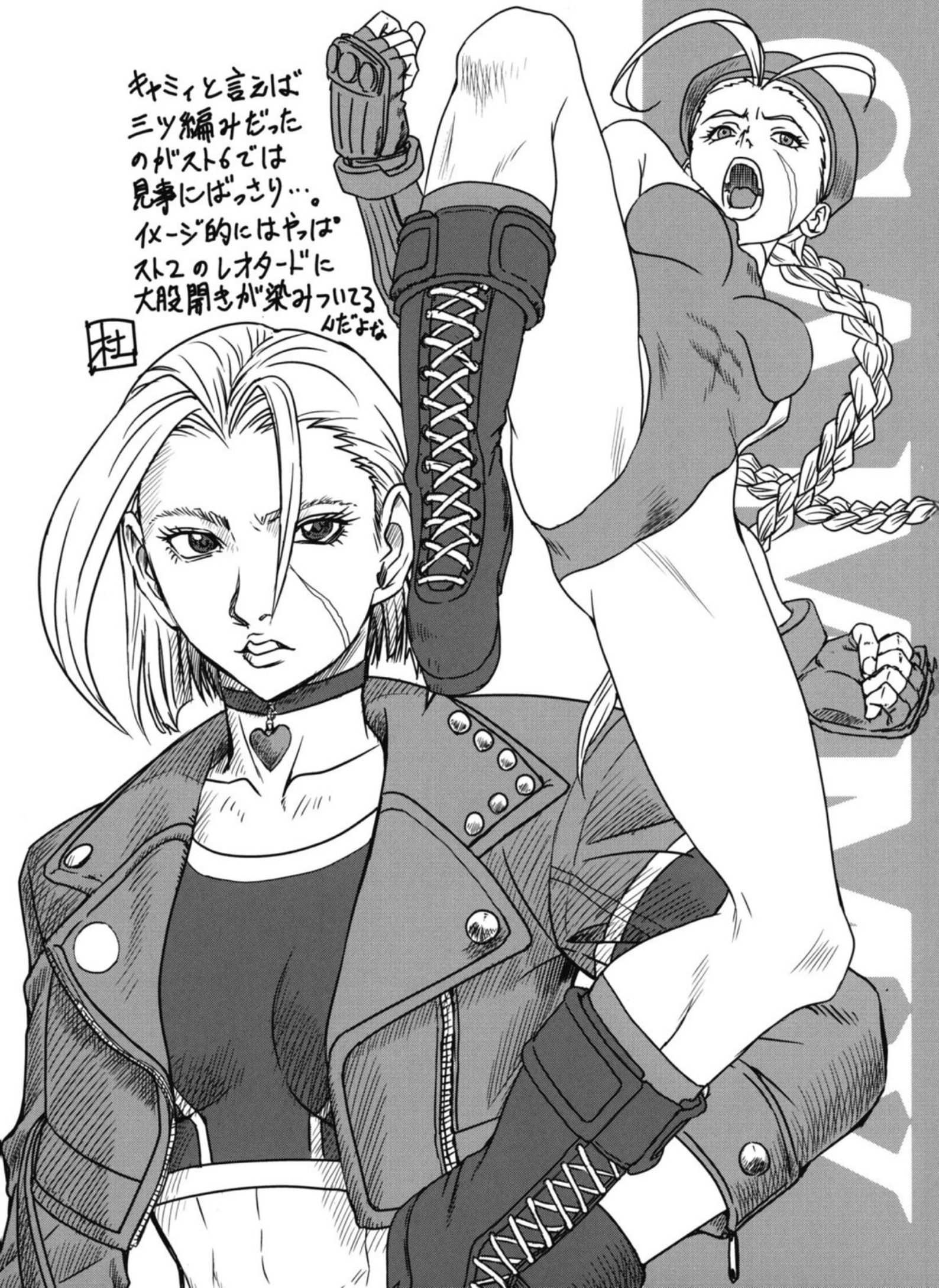






キャミと言えは  
三ツ編みだった  
のがスト6では  
見事にばっさり...  
イマジ的にはやっぱり  
スト2のレオタードに  
大股開きが染みついてる  
んだよね

杜





STREET FIGHTER 6  
それでは次回もゲーセンでお会いしましょう



※今回未収録のカットはシナリオ追加+カラー化した電子版にて追加収録予定です。

・キャミちゃん・  
発行日:2024年8月12日(C104)  
発行:威風堂  
印刷:JC2 TAIYAKI  
mail:nakanorarmen@hotmail.com

・注意書き・  
本書でのデジタルコピーを含む無断転載・複製・複写を禁止いたします。  
上述の行為を発見・報告時には速やかに法的処理を致します。  
またネットオークション、フリマへの出品はご遠慮ください。

威風堂  
2024



たまつやだ/じゃっじ/杜若菜/JUN/中野ら〜めん